

概 況

概況

1. 取扱高

(1) 年間取扱高

平成4年中(1月5日から12月30日、開市日数274日)の総取扱数量は、807,920tで前年比97.0%と前年をやや下回り、総取扱金額は、804,962百万円で前年比97.4%と前年をやや下回った。総平均価格は996円で、前年に比べ4円高となった。取扱数量では、鮮魚類は、ハマチやカツオが減少したが、スルメイカ、マアジ、サンマなどが増加となり、全体では5.9%増となった。活魚類は、活ハマチなどが減少したが、活カンパチ、活アナゴ、活マタイが増加し、全体では4.0%増となった。冷凍魚類は、冷タコなどが増加したが、生鮮品の出回りが豊富で全般に減少し、全体では8.2%減となった。加工品類は、焼物製品、湯煮品などがわずかに増加したが、塩蔵品が減少に転じるなど全般に振るわず、全体では4.8%減となった。取扱金額では、鮮魚類は1.4%増、活魚類は2.7%減、貝類は4.0%減、冷凍魚類は6.3%減、淡水魚類は6.1%増、海藻類は、わずかに減、加工品は1.0%減となった。平均価格では、鮮魚類は4.3%安、活魚類は6.4%安、貝類は5.0%安、冷凍魚類は2.1%高、淡水魚類は3.8%安、海藻類は1.6%高、加工品類は4.0%高となった。

(ア) 生鮮品

鮮魚類の取扱数量は192,165tで、前年比105.9%とやや増加し、平均価格は1,042円で、前年比47円安となった。主要品目で見ると、サンマは、入荷は1.0割増となった。平均価格は、30円安となった。カツオは、入荷は0.9割減となった。平均価格は128円高となった。マイワシの入荷はほぼ前年並で、平均価格は、9円安となった。マグロ類は、メジが2.8割減、キワダ(輸入)が2.6割減となったが、キワダ(国内)が4.2割増、マグロ(国内)も2.7割増となり、全体では0.4割増となった。平均価格は、46円安となった。スルメイカは5.3割と大幅に増加し、平均価格は143円安となった。マアジは2.0割増となった。平均価格は、74円安となった。養殖ハマチは0.5割減となり、平均価格は、53円高となった。活魚類の取扱数量は13,411tで、活カンパチ、活マタイなどが増加し、前年比104.0%となった。平均価格は1,890円で、130円安となった。貝類の取扱数量は、54,204tで前年比101.0%となった。平均価格は969円で、31円安となった。主要品目で見ると、アカ貝が0.2割減で23円安、アサリは0.9割減で37円高、アワビは1.5割減で375円高、トリ貝は1.7割増で693円安、アオヤギは0.9割減で4円高、ムキカキは1.1割増で83円安、ムキホタテ貝は3.7割増で319円安となった。淡水魚類の取扱数量は3,767tで、前年比102.4%とわずかに増加し、平均価格は1,309円で、96円安となった。主要品目で見ると、アユが1.8割減で199円高となった。ウナギが0.8割減で24円高となった。

(イ) 冷凍品

冷凍魚類の取扱数量は246,266tで、前年比91.8%と減少し、平均価格は1,075円で、前年比22円高となった。主要品目で見ると、冷エビ類は、オーストラリア物が4.8割増、インドネシア物が1.5割増となる一方、タイ物が3.0割減、フィリピン物が2.7割減など減少傾向となり、全体では0.5割減となった。平均価格は1,658円で、前年比75円安となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが2.2割減となり、全体では0.6割減となった。平均価格は913円で、

前年比84円高となった。冷イカ類は、モンコウイカが2.3割増のほかはすべて減少し、全体では1.1割減となった。平均価格は606円で、18円高となった。冷マグロ類は、冷ホンマグロが0.9割増のほかは、冷キワダの3.4割減など、全般に減少し、全体では0.7割減となった。平均価格は、1,644円で前年比127円安となった。その他の冷凍魚類では、冷サバが2.8割減で、平均価格は41円安となった。冷スリミは3.1割減で、平均価格は36円安となった。冷凍貝類の取扱数量は5,702tで、前年比101.2%となった。平均価格は1,298円で、前年比257円安となった。主要品目で見ると、冷ホタテ貝は2.8割増で、平均価格は457円安となった。冷アワビは0.9割増となり、平均価格は344円安となった。冷凍淡水魚の取扱数量は660tで、前年比77.0%となった。平均価格は899円で、64円高となった。主要品目で見ると、冷アユが3.9割減で、平均価格は238円安となった。冷ワカサギは6.5割減となり、20円高となった。

(ウ) 加工品

加工品の取扱数量は284,240tで、前年比95.2%と減少した。平均価格は865円で、前年比33円高となった。主要品目で見ると、焼物製品は、蒲焼ウナギが1.1割増となり、全体では0.2割増となった。平均価格は1,928円で、102円高となった。塩干品は、開干アジが0.5割減となり、全体でも0.4割減となった。平均価格は566円となり、6円高となった。塩蔵品は、塩ギンサケが0.5割増となったが、塩シロサケが2.3割減、塩ベニサケが2.1割減、塩アキサケが1.9割減となり、全体では1.1割減となった。平均価格は1,765円で、249円高となった。煮干製品は、煮干イワシが0.3割増、コウナゴが0.2割増となったが、シラス干が0.4割減となり、全体では、ほぼ前年並みとなった。平均価格は1,021円で、194円安となった。

1月

鮮魚類 取扱数量 13,891t (対前年比 106.0%)
平均価格 1,166円 (" 31円安)

取扱数量では、メジは、前年に続いて豊漁で2.3倍増となり、マグロ(国内)も2倍増、キワダ(国内)は5.2割増となった。キワダ(輸入)は2.5割減、マグロ(輸入)は1.8割減、メバチ(国内)は1.7割減となった。スルメイカは、豊漁で5.4割増、サンマは3.9割増、マアジは、3.3割増となった。ハマチは2.6割減、サバも2.6割減となった。平均価格では、入荷減少のハマチが3割高、サバが1.1割高となった。マグロは、国内物が2割安、輸入物も2.8割安、キワダ(国内)は1.4割安となった。サンマは3.2割安、マアジが2.3割安、スルメイカも1.7割安となった。

活魚類 取扱数量 1,038t (対前年比 106.3%)
平均価格 1,819円 (" 8円安)

取扱数量では、活カンパチが7.3割増、活マタイが1.1割増となり、活シマアジが3.2割減、活ハマチが0.8割減となった。平均価格では、活ハマチが2.6割高、活シマアジが2.1割高となり、活マタイは1.1割安となった。

貝類 取扱数量 4,994t (対前年比 102.7%)
平均価格 1,025円 (" 73円安)

アオヤギ等が減少したが、ホタテ貝、アカ貝等が増加し、全体では増加となった。

冷凍魚類 取扱数量 17,997t (対前年比 94.5%)
平均価格 1,080円 (" 42円高)

取扱数量では、冷マグロ類は、主力のメバチが 0.5割増となったが、キワダが 7割減になるなど、全体では 0.9割減となった。冷イカ類は、モンゴウが増加したが、スルメイカが国内物・輸入物共に入荷半減となり、全体では 1.4割減となった。冷サケ・マス類は、シロサケが減少したほかは全般に増加し、3.7割増となった。冷カニ類は、煮ズワイが大幅に増加し、全体では 5.9割増となった。平均価格では、冷サケ・マス類が 2.2割高となったが、冷カニ類は、1割安となった。入荷減少の冷スリミは 2倍高となった。冷マグロ類は、大幅減のキワダが 6.6割高、インドも 1.1割高で、全体では 0.4割高となった。

☆加工品類 取扱数量 20,196t (対前年比 95.8%)
平均価格 788円 (" 74円高)

取扱数量では、塩蔵品がイクラ、塩サケ等の増加で 1.4割増となった。煮干製品は 0.9割増となった。練製品は、チクワ、カマボコが減少し、0.8割減となった。平均価格では、塩蔵品が 1.5割高、焼物製品が 1.3割高、練製品も 1.3割高となり、煮干製品は 2.8割安となった。

2月

☆鮮魚類 取扱数量 14,659t (対前年比 115.0%)
平均価格 1,104円 (" 82円安)

取扱数量では、メジは、3倍増、キワダ(国内)が 2倍増、マグロ(輸入)も 8.7割増となったが、キワダ(輸入)が 3割減、マグロ(国内)も 1.8割減となった。スルメイカは、豊漁が続き 2.8倍増、マアジは 6.4割増、サンマは 4.1割増、マイワシも 1.2割増となった。ハマチは 1.5割減となった。平均価格では、ハマチが 2.4割高となったほかは、スルメイカが 4.1割安となったほか、サンマが 3.2割安、マアジが 2.8割安、メジが 2.5割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,016t (対前年比 109.1%)
平均価格 1,856円 (" 30円安)

取扱数量では、活カンパチが 5.1割増、活ヒラメが 2.8割増、活アナゴは 1.6割増となった。活シマアジは 1.5割減となった。平均価格では、活ハマチが 2.3割高、活シマアジが 2割高となった。活ヒラメは 1.9割安、活マタイは、1割安となった。

☆貝類 取扱数量 5,301t (対前年比 106.8%)
平均価格 917円 (" 95円安)

ハマグリ、アオヤギなどが減少したが、ホタテ貝、アカ貝、サザエなどが増加した。

☆冷凍魚類 取扱数量 19,718t (対前年比 98.8%)
平均価格 1,025円 (" 33円高)

取扱数量では、冷サケ・マス類は、ベニサケが減少したが、シロサケが増加し、2.6割増となった。冷マグロ類は、メバチが増加して、0.7割増となった。冷タイ類は、大幅に減少し 7.1割減となり、冷カレイ類は 2.5割減となった。冷イカ類は、モンゴウが 6割増加したものの、1月に続きスルメイカが大幅減少し、全体では 1.2割減となった。冷サバは 3割減、冷タコは 6.4割増となった。平均価格では、入荷減少のベニサケが 5.2割高で、冷サケ・マス類全体でも 2.6割高となった。冷イカ類は、モンゴウが 3.4割安となるも輸入スルメが入荷減で高く、全体ではほぼ前年並となった。入荷減の冷タイ類は 6.6割高となった。

☆加工品類 取扱数量 23,091t (対前年比 104.5%)
平均価格 790円 (" 67円高)

取扱数量では、塩蔵品は、塩アキサケが倍増し、全体で 3割増となった。煮干製品は、シラス干が 5割増で、全体でも 2.8割増となった。切身加工品が 4.5割増、焼物製品も 1.8割増となった。平均価格では、練製品が 1.7割高、塩蔵品が 0.9割高となり、煮干製品は、シラス干が大幅安

で、2.8割安となった。

3月

☆鮮魚類 取扱数量 15,194t (対前年比 107.4%)
平均価格 1,135円 (" 75円安)

取扱数量では、マグロ(国内)は 3.5倍増、キワダ(国内)は 4.3割増となったが、マグロ(輸入)は 2.8割減となった。スルメイカは、引き続き豊漁で 2.8倍増、ヤリイカも 4.3割増となった。マアジは 3.7割増、サンマも 3.2割増となったが、キンメタイは 5.5割減、ハマチが 1.5割減、サバは 1.3割減となった。平均価格では、キンメタイが 5.9割高、ハマチは 1.5割高、マグロ(国内)が 1.4割高となった。スルメイカは 5.9割安、ヤリイカが 2.9割安、サンマは 3.3割安となった。また、キワダ(国内)が 2.9割安、マグロ(輸入)も 2.3割安となった。

☆活魚類 取扱数量 17,159t (対前年比 109.0%)
平均価格 1,937円 (" 225円安)

取扱数量では、活カンパチが 6.6割増となったほか、活ヒラメが 2.3割増となり、活マタイ、活アナゴも増加した。活シマアジは 2.2割減、活ハマチは 1割減となった。平均価格では、活シマアジが 1.9割高、活ハマチが 1.4割高となり、活アナゴが 2.8割安、活ヒラメが 1.9割安、活マタイも 1.6割安となった。

☆貝類 取扱数量 5,222t (対前年比 103.8%)
平均価格 939円 (" 128円安)

アサリがわずかに減少したが、サザエ、ムキカキなどが増加した。

☆冷凍魚類 取扱数量 20,896t (対前年比 90.2%)
平均価格 1,040円 (" 1円安)

取扱数量では、冷タイ類が 9.2割増、ギンダラが 2.6倍増となった。冷サケ・マス類は、主力のベニサケが 4.2割減となったが、全体では 1.1割増となった。冷イカ類は、モンゴウが 2.7割増となったものの、全体では 0.8割減となった。冷マグロ類は、キワダが 6.3割減、メバチもやや減って、全体でも 0.5割減となった。冷カニ類は 2.2割減、冷カレイ類は 1.4割減、冷エビ類も 1.2割減となった。平均価格では、冷サケ・マス類は、ベニサケが 2.3割高で、全体で 0.3割高となった。冷タイ類は 2.8割安、冷タコは 3.4割安、ギンダラは 1.9割安となった。

☆加工品類 取扱数量 24,610t (対前年比 96.9%)
平均価格 819円 (" 37円高)

取扱数量では、煮干製品は、シラス干が 6割増となり、全体では 1.6割増となった。切身加工品は 2.8割増、湯煮品が 2.7割増となった。練製品は、チクワ・カマボコが減少して 0.8割減、塩干品も 0.8割減となった。平均価格では、練製品は、1月に製品値上げがあり 1.9割高、焼物製品は 1.8割高、塩蔵品は 1.3割高となった。煮干製品は、シラス干が安くなり全体で 3.4割安、湯煮品も 1.7割安となった。

4月

☆鮮魚類 取扱数量 15,664t (対前年比 105.3%)
平均価格 1,109円 (" 14円安)

取扱数量では、マグロ(国内)は 7.4割増、キワダ(国内)は 7.1割増、メバチ(国内)も 2.5割増となった。スルメイカは 8割増、サンマは 4.2割増、マアジも 2.4割増となった。マタイは、輸入物が 3.5割増、養殖物が 3.4割増となった。サバは 2割減、ハマチは 1.9割減となった。平均価格では、入荷減のキンメタイが 5.9割高、マイワシは 1.9割高、カツオは不漁で 1.2割高となった。サンマは 3.5割安、スルメイカは 2.2割安となり、マグロは、国内物が 2.2割安、輸入物が 3.1割安、キワダ(国内)は 1.8

割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,201t (対前年比 107.3%)
平均価格 1,889円 (" 158円安)

取扱数量では、活カンパチが7.1割増、活ヒラメが2.3割増、活マタイは1.4割増となった。平均価格では、活ハマチが1.4割高となった。活ヒラメは2.3割安、活マタイは1.4割安、活アナゴは、1割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,948t (対前年比 97.2%)
平均価格 983円 (" 57円安)

シジミなどが増加したが、アサリ、アオヤギ、アカ貝などが減少し、全体では、減少となった。

☆冷凍魚類 取扱数量 24,131t (対前年比 96.7%)
平均価格 1,019円 (" 17円安)

取扱数量では、冷タイ類が5割増、冷イカ類は、モンゴウが1.5割増も輸入スルメが激減して、全体では1.4割減となった。冷マグロ類は、キワダが3.1割減で、全体でも0.4割減となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが2割減で、全体でも0.6割減となった。タコは4割増、サワラは3.2割増、ギンドラが2.9割増となった。サバは3.2割減となった。平均価格では、冷サケ・マス類は、ベニサケが3.6割高で全体で1.5割高、冷マグロ類は、キワダが3.2割高となったが、全体では前年並となった。キンメは入荷倍増で3.3割安、タコも3.4割安となった。

☆加工品類 取扱数量 25,400t (対前年比 95.4%)
平均価格 823円 (" 44円高)

取扱数量では、焼物製品が2.1割増となったが、塩蔵品は、塩シロサケが半減するなど1.3割減となり、練製品も1.1割減となった。平均価格では、塩蔵品が全般的に高く2.4割高、練製品が1.9割高、焼物製品が1.5割高となった。煮干製品は、シラス干が3割安で、全体でも2.6割安となった。

5月

☆鮮魚類 取扱数量 15,406t (対前年比 102.3%)
平均価格 1,022円 (" 18円安)

取扱数量では、マグロ(国内)が9.6割増、キワダ(国内)も2.3割増となったが、逆にマグロ(輸入)は5.4割減、キワダ(輸入)も4割減となった。サンマが3.6割増スルメイカが2.7割増、マアジは1.9割増となった。マイワシは1.5割減、カツオが1.3割減、ハマチも1.2割減となった。平均価格では、メバチ(国内)は2.2割高となっ

たが、マグロ(国内)は2.1割安、キワダ(輸入)は2.4割安となり、カツオは、相変わらず不漁で2.5割高となった。サンマが3.4割安、マアジは、小型物が多く1.2割安、入荷増のイサキが1.3割安、マタイ(養殖)も1.2割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,129t (対前年比 100.0%)
平均価格 1,809円 (" 152円安)

取扱数量では、活カンパチが5.7割増、活ヒラメが1.3割増となった。活ハマチは1.4割減となった。平均価格では、活スズキが1.7割高、活ハマチが1.2割高となった。活ヒラメは1.9割安、活アナゴが1.7割安となり、活マタイは1.5割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,585t (対前年比 94.5%)
平均価格 960円 (" 44円安)

トリ貝が増加したが、アサリ、アオヤギなどが減少し、全体では、減少となった。

☆冷凍魚類 取扱数量 19,569t (対前年比 89.2%)
平均価格 1,058円 (" 23円高)

取扱数量では、冷サケ・マス類は、ベニサケ、シロサケとも増加し、全体で0.5割増となった。冷カレイ類が2.4割増、サワラが2.4割増、タコも2.4割増、サバが2.2割増となった。冷エビ類は、アカエビが5.2割増となったが、全体では1割減となった。冷マグロ類は、メバチが1割減で、全体でも1割減となった。冷イカ類は2.4割減、冷カニ類が1.7割減となった。平均価格では、入荷減の冷イカ類が1.7割高、冷マグロ類は、キワダが2.9割高で、全体で0.7割高となった。冷タコは3.1割安、冷サバは1.8割安となった。

☆加工品類 取扱数量 23,421t (対前年比 92.1%)
平均価格 817円 (" 23円高)

取扱数量では、湯煮品は、煮タコが増加し0.7割増となった。素干品は、干スルメ(SA)が激減し、全体では4.5割減となった。塩蔵品は、塩ベニサケが4割減で、全体では1.2割減となった。平均価格では、塩蔵品は、魚卵の原料高が影響し1.7割高、素干品は2割高、練製品は1.3割高となった。煮干品は2.2割安、湯煮品も2.2割安となった。

6月

☆鮮魚類 取扱数量 16,563t (対前年比 117.0%)
平均価格 961円 (" 54円安)

図1-1 総取扱数量の動き

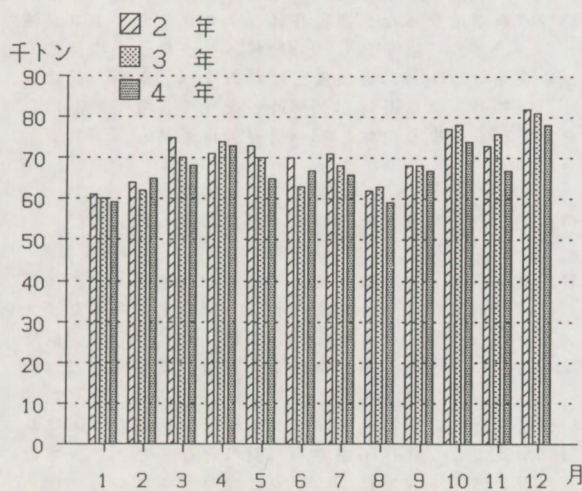


図1-2 総平均価格の動き

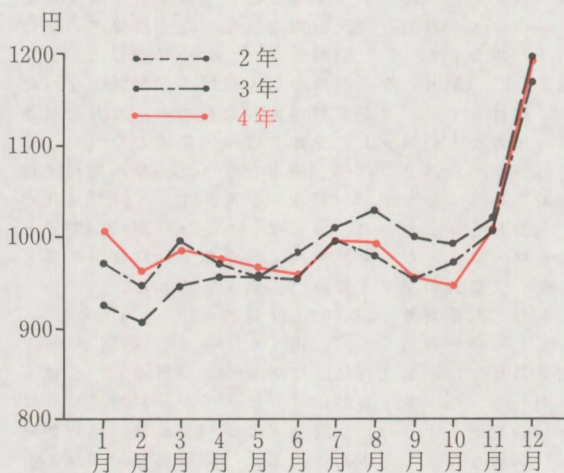
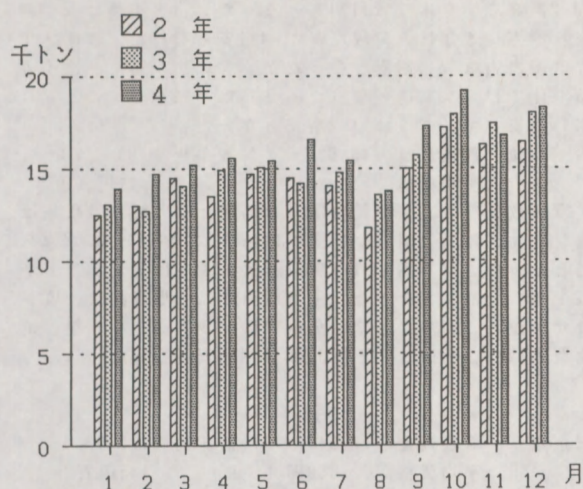


図2-1 鮮魚取扱数量の動き



取扱数量では、前年少なかったマグロ（国内）が3.2割増、メバチ（輸入）は2.4割増となり、メジは再び増えてついに11倍となった。マグロ（輸入）は4.8割減、メバチ（国内）も3.6割減となった。サンマが4.8割増となったほか、スルメイカも4.8割増、サバは3.7割増、マアジは1.7割増となった。平均価格では、カツオが2.5割高、ハマチが1割高となった。メバチ（国内）は2.5割高となったが、マグロ（国内）は3.6割安となった。サンマが3割安、スルメイカが2.3割安、サバは1.5割安、マタイ（養殖）は1.1割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,151t（対前年比 106.3%）
平均価格 1,895円（ " 201円安）

取扱数量では、活カンパチが5.7割増、活マタイが2.6割増、活アナゴが1.1割増となった。活ハマチは2.2割減となった。平均価格では、活ハマチが2.9割高、活アナゴが3.7割安、活ヒラメは2.6割安、活マタイは2.2割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,607t（対前年比 104.0%）
平均価格 981円（ " 72円安）

ハマグリ、ホタテ貝などが増加、アサリ、サザエなどが減少した。

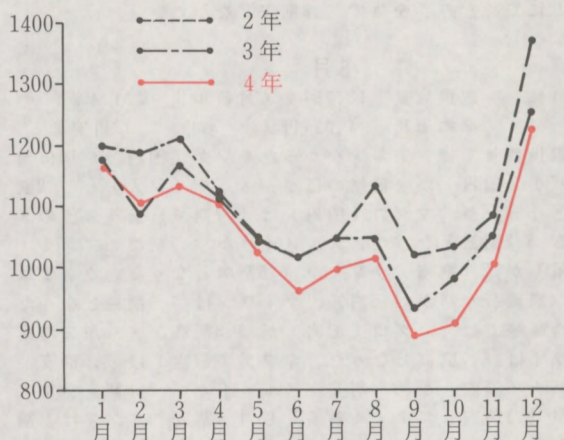
☆冷凍魚類 取扱数量 19,966t（対前年比 103.6%）
平均価格 1,075円（ " 41円安）

取扱数量では、冷サケ・マス類は、シロサケが5割増で全体で3.5割増となった。冷エビ類は、アカエビが6.4割増で、全体で1.7割増となった。冷カレイ類は3.8割増となった。また、冷タコが9.4割増、しばらく少なかった冷スリミが9.2割増、冷サワラが3.5割増となった。冷イカ類は1.6割減、冷カニ類は1.3割減、冷ギンダラは1.9割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、キワダが3.8割高、メバチも1.6割高で、全体で1.2割高となった。冷イカ類は、入荷減で1.8割高、冷サケ・マス類は、シロサケ、ベニサケとも高くなり、全体で0.8割高となった。冷カレイ類は1.4割安、冷タコが2.3割安、冷サバは1.6割安となった。

☆加工品類 取扱数量 23,392t（対前年比 101.0%）
平均価格 809円（ " 27円高）

取扱数量では、煮干製品は、煮干イワシが5割増で、全体で2.4割増となった。湯煮品は、煮タコが増加し1.6割増となった。素干品は、干スルメ（SA）が引き続き少なく、全体でも3.3割減となった。また、焼物製品は1.7割減となった。平均価格では、素干品は2.5割高、塩蔵品は

図2-2 鮮魚平均価格の動き



1.6割高となった。煮干品は1.7割安、湯煮品は1割安となった。

7月

☆鮮魚類 取扱数量 15,394t（対前年比 104.3%）
平均価格 998円（ " 47円安）

取扱数量では、メバチ（国内）は8.8割増、マグロ（輸入）が5.1割増、キワダ（国内）が4.3割増となった。サンマは6.2割増、サバが3割増、スルメイカが2.5割増となった。カツオは、3割減となった。平均価格では、カツオが5割高となり、マグロ（輸入）は2.5割安、キワダ（国内）が3割安、サンマが3.5割安、スルメイカが3.4割安、マタイ（養殖）は1.3割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,222t（対前年比 102.4%）
平均価格 1,925円（ " 175円安）

取扱数量では、活カンパチが4.2割増、活マタイが1.4割増となった。活スズキは1.3割減となった。平均価格では、活ハマチが2.9割高、活タコが1.9割高となった。活マタイが1.4割安、活アナゴも1.4割安となった。

☆貝類 取扱数量 4,672t（対前年比 101.2%）
平均価格 1,020円（ " 68円安）

アサリ、アカ貝などが減少したが、ホタテ貝などが増加して、全体の数量は前年並となった。

☆冷凍魚類 取扱数量 20,967t（対前年比 98.1%）
平均価格 1,081円（ " 2円高）

取扱数量では、冷サケ・マス類は、ベニサケが8.6割増となり、全体でも2.9割増となった。冷タイ類が6.8割増、冷カレイ類も2.4割増となった。サワラは9.1割増、タコが5割増、サバが3割増となった。冷イカ類は、モンゴウが7.9割増となったものの、スルメイカが減少し、全体で0.9割減となった。冷マグロ類は、主力のメバチが減少し、全体で2.2割減となった。冷ギンダラは、半減となった。平均価格では、冷サケ・マス類が1割高、冷マグロ類は、メバチが2割高、キワダも2.4割高で、全体で0.9割高となった。冷イカ類は、輸入スルメの減少で、1割高となった。冷カレイ類は1.9割安、サバが2.1割安、タコは1.2割安となった。

☆加工品類 取扱数量 22,527t（対前年比 91.5%）
平均価格 861円（ " 29円高）

取扱数量では、干スルメは、国内物が増加したが、SA物が7割減となり、素干品全体でも3.2割減となった。焼物製品は、蒲焼ウナギの需要期だが、4月以来の高値が

嫌われ 2.2割減、塩蔵品は 1.2割減となった。平均価格では、塩蔵品は 1.8割高、煮干品は、煮干イワシ、シラス干ともに安くなり、全体で 1.8割安となった。

8月

☆鮮魚類 取扱数量 13,791t (対前年比 101.4%)
平均価格 1,017円 (" 33円安)

取扱数量では、前年少なかったキワダ(国内)が10倍増、メバチ(国内)が2倍増のほか、メバチ(輸入)も7.8割増となったが、マグロ(国内)は8.2割減、前年豊漁のメジも8.7割減となった。スルメイカが4.1割増、マタイ(養殖)が2.6割増、サンマが2.5割増となった。カツオは3.4割減、サバが1.6割減、マイワシは1.5割減となった。平均価格では、マグロ(国内)が5.3割高、メジが2倍高、カツオは3.7割高となった。キワダ(国内)は3.8割安、メバチ(国内)が3.4割安、スルメイカが2.8割安、マジが1.1割安、マタイ(養殖)も1.1割安、サンマは1割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,009t (対前年比 99.5%)
平均価格 2,079円 (" 25円安)

取扱数量では、活カンパチは6.1割増、活ヒラメは2.3割増、活マタイは1.1割増となった。活スズキは2.2割減、活ハマチは1.2割減となった。平均価格では、入荷減の活タコが4.4割高、活ハマチが2.2割高となった。活ヒラメは1.8割安となった。

☆貝類 取扱数量 3,856t (対前年比 96.4%)
平均価格 1,060円 (" 10円安)

ハマグリ、ホタテ貝などが増加したが、アサリ、アオヤギなどは減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 19,423t (対前年比 90.5%)
平均価格 1,084円 (" 31円高)

取扱数量では、冷エビ類は、アカエビが3.1割増で、全体では1.3割増となった。冷タイ類は倍増した。冷マグロ類は、メバチが0.9割減、キワダも2.4割減で、全体でも1.1割減となった。冷イカ類は、国内スルメ以外は減少し、1.5割減となった。冷サケ・マス類は、シロサケが6割増となったものの、主力のベニサケが2.1割減となって、全体では1.3割減となった。冷カレイ類は1.8割減となった。ニシンは3.3割増、ギンダラは6.4割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、メバチ、キワダともに1.8割高で、全体で1.2割高となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが

3.3割高で、全体で2.1割高となった。冷タイ類は2.3割安、冷カレイ類は入荷減だが1.4割安となった。スルメイカは国内物は2.5割安となったが、輸入物が高く、冷イカ類全体では0.5割高となった。サバは1.9割安、ニシンは1.4割安、ギンダラは1.3割安となった。

☆加工品類 取扱数量 19,625t (対前年比 90.7%)
平均価格 823円 (" 17円高)

取扱数量では、焼物製品は2.6割増となった。塩蔵品は、塩シロサケの6.2割減など全般に減少し、全体では3.2割減となった。塩干品は1.1割減、煮干製品は、シラス干が減少して1割減となった。平均価格では、塩蔵品は、塩シロサケが3.7割高などで、全体では、3割高となった。焼物製品は1.3割高、煮干製品は1.4割安となった。

9月

☆鮮魚類 取扱数量 17,349t (対前年比 110.5%)
平均価格 889円 (" 43円安)

取扱数量では、マグロ(国内)、キワダ(国内)がともに倍増し、メバチ(輸入)も8.1割増となった。マグロ(輸入)は1.9割減となった。キンメタイは5.5割増、スルメイカは4.8割増、マタイ(養殖)が3.1割増、マイワシが2.8割増、ハマチが1.7割増、サンマも1.3割増となった。シロサケは2.1割減、マタイ(輸入)は1.9割減、サバは1.5割減となった。平均価格では、シロサケが4.1割高、カツオが3.4割高、サバが1.4割高となった。キワダは5.2割安、メバチ(輸入)が1.2割安となり、キンメタイが3.1割安、マイワシが2.9割安、スルメイカが1.6割安、ハマチが1.3割安となった。

☆活魚類 取扱数量 993t (対前年比 110.0%)
平均価格 2,120円 (" 193円安)

取扱数量では、活カンパチが5.3割増、活マタイが2.4割増、活スズキが2.1割増、活アナゴが1.3割増となった。活タコは2.8割減となった。平均価格では、活タコが5.3割高となった。活スズキは2.1割安、活マタイは1.8割安、活ヒラメは1.4割安、活アナゴは1.3割安となった。

☆貝類 取扱数量 3,968t (対前年比 106.9%)
平均価格 1,047円 (" 49円安)

アオヤギが8.8割増となったほか、ホタテ貝、ハマグリ、アカ貝が増加した。

☆冷凍魚類 取扱数量 21,283t (対前年比 89.8%)
平均価格 1,065円 (" 28円高)

図3-1 貝類取扱数量の動き

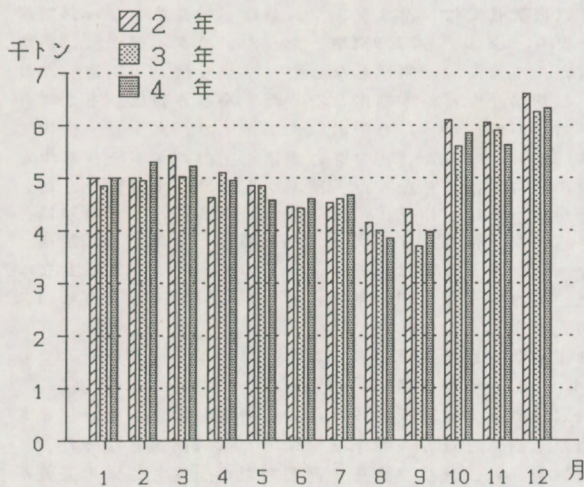


図3-2 貝類平均価格の動き

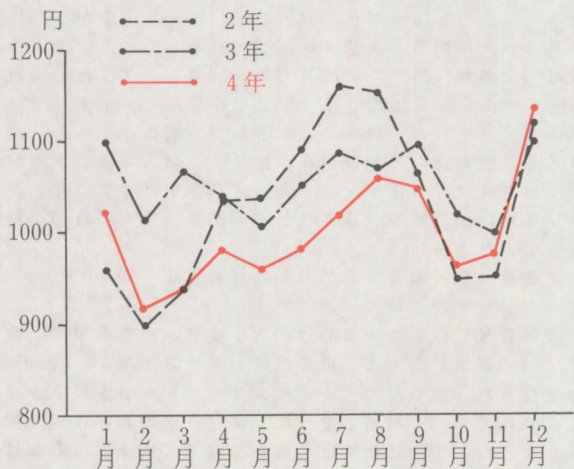
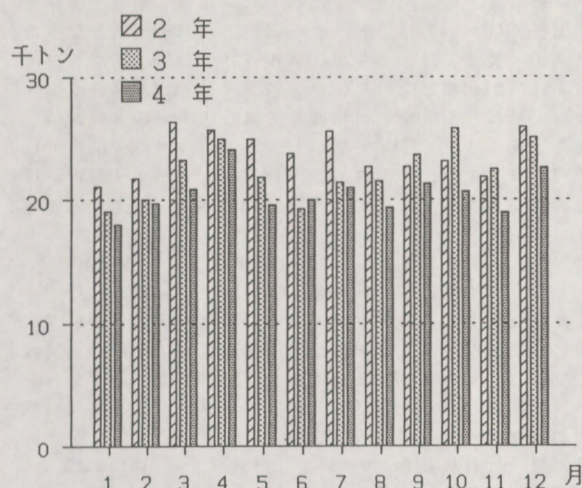


図4-1 冷凍魚取扱数量の動き



取扱数量では、冷イカ類は、モンゴウが倍増し、全体でも1.5割増となった。冷サケ・マス類は、シロサケが4.2割増となったが、主力のベニサケが2.5割減となり、全体では1.4割減となった。冷カニ類は、煮ズワイが3.4割減で、全体で0.8割減となった。冷タイ類は5.2割減、冷カレイ類は3.3割減となった。冷ギンダラも6.4割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、メバチが1.8割高で、全体で1割高となった。冷カニ類は、煮ズワイが2割高で、全体で2.4割高となった。冷タイ類は6.6割高となった。冷イカ類は、国内スルメが2.3割安となったが、SA物が1.5割高になるなど、全体ではほぼ前年並となった。冷ギンダラは2.5割安、冷ニシンは2.1割安、冷サバは2.6割安となった。

☆加工品類 取扱数量 22,768t (対前年比 97.0%)
平均価格 842円 (" 26円高)

取扱数量では、湯煮品が煮タコの増加で0.9割増、焼物製品が1.6割増となった。塩蔵品は、塩シロサケが半減し、全体で2割減となった。煮干製品は、煮干イワシが減少して0.8割減となった。平均価格では、塩蔵品は、塩アキサケが3.4割高、イクラが4.6割高となり、全体で2.3割高となった。素干品は、干スルメが安くなり0.8割安となった。

10月

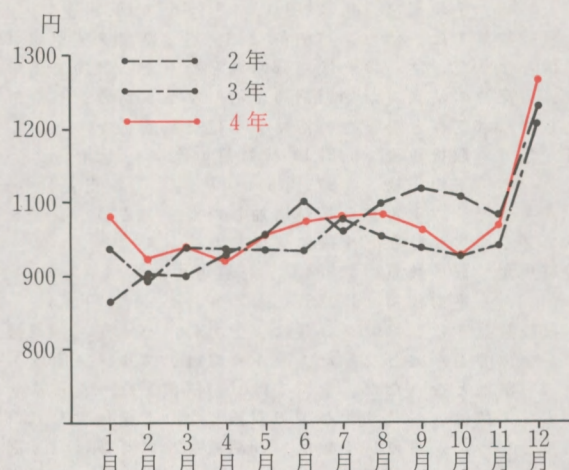
☆鮮魚類 取扱数量 19,213t (対前年比 107.6%)
平均価格 910円 (" 70円安)

取扱数量では、メバチ(輸入)が8割増、キワダ(国内)が3.1割増となった。また、マグロ(国内)は2.1割減、メバチ(国内)は1.5割減となった。スルメイカが5.3割増、サバが2割増、マイワシが2.2割増、マアジが1.8割増となった。キンメタイは2.4割減、シロサケは1.2割減、サンマは1.1割減となった。平均価格では、入荷減のメジが4.9割高、マグロ(国内)が1.6割安、メバチ(輸入)が1.5割安となった。キンメタイは2.4割高、シロサケが1.9割高、カツオが1.3割高となった。キワダ(国内)は5割安、スルメイカが3.4割安、マイワシが2.5割安、サバが1.8割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,076t (対前年比 106.3%)
平均価格 1,930円 (" 205円安)

取扱数量では、活カンパチが4.7割増のほか、活シマアジが2.6割増、活マタイが2.3割増、活ヒラメは1.1割増となった。平均価格では、入荷減の活タコが4.4割高のほ

図4-2 冷凍魚平均価格の動き



か、活マタイは1.9割安、活アナゴは1.6割安、活ヒラメは1.3割安となった。

☆貝類 取扱数量 5,815t (対前年比 104.1%)
平均価格 961円 (" 58円安)

アサリが減少したが、ホタテ貝、アオヤギ、カキなどが増加した。

☆冷凍魚類 取扱数量 20,703t (対前年比 80.2%)
平均価格 1,026円 (" 2円高)

取扱数量では、冷タイ類が1.9割増となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが激減し、全体で4.6割減となった。冷イカ類は、モンゴウが1.5割増となるも全体では1.9割減となった。冷カニ類は、ワタリが減少し1.6割減となった。冷マグロ類は、メバチが1.1割減、キワダも減少して全体では1.5割減となった。冷カレイ類は2.7割減、冷エビ類も1.5割減となった。キンメは2.7倍増となったが、サバが3.3割減、ギンダラが1.5割減となるなど、全般に大幅な減少となった。平均価格では、冷マグロ類は、メバチが2.1割高となり、全体で1.6割高となった。冷イカ類は、モンゴウが1.3割高となったが、スルメイカ(国内)が4割安となって、全体では0.5割安となった。ギンダラが3.1割安、キンメが1.7割安のほか、サバは入荷減でも2.2割安、アカエビも1.3割安と低調であった。

☆加工品類 取扱数量 26,717t (対前年比 97.8%)
平均価格 878円 (" 12円高)

取扱数量では、焼物製品が0.9割増となった。素干品は、干スルメ(SA)が大幅減で1.5割減、煮干製品もシラス干が減少して0.9割減となった。塩蔵品は、塩ギンサケが6割増に対し、塩シロサケ、塩ベニサケが減少して0.4割減となった。平均価格では、塩蔵品は、イクラが4.8割高、塩アキサケが3.6割高となり、全体で1.1割高となった。素干品は0.9割安となった。

11月

☆鮮魚類 取扱数量 16,803t (対前年比 96.6%)
平均価格 1,004円 (" 47円安)

取扱数量では、マグロ(輸入)が7.2割増、メバチ(輸入)が6.1割増、キワダ(国内)が5.6割増となった。マタイは、養殖物は3.7割増となったが、輸入物は3.1割減となった。スルメイカは4.4割増、サンマは2.1割減、カツオは1.1割減となった。平均価格では、前年大豊漁のメジが激減し、4倍高となった。マグロ(国内)は3.5割安、キワダ(国内)は2.7割安、スルメイカは4.2割安、マタ

イ(養殖)は1.5割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,056t(対前年比 96.6%)
平均価格 1,722円(" 109円安)

取扱数量では、活カンパチが2.3割増、活マタイが1.6割増となった。活ハマチは1.6割減となった。平均価格では、入荷減の活タコが4.1割高、活ハマチ、活カンパチがともに0.6割高となった。活マタイは2割安となった。

☆貝類 取扱数量 5,620t(対前年比 95.4%)
平均価格 975円(" 24円安)

ムキカキ、ムキホタテ貝が増加したが、アカ貝、シジミ、ハマグリ、アサリなど全般に減少した。

☆冷凍魚類 取扱数量 18,984t(対前年比 84.4%)
平均価格 1,066円(" 25円高)

取扱数量では、冷マグロ類は、主力のメバチが1.4割減で、全体で1割減となった。冷イカ類は、スルメ(国内)が3.1割増となったが、全体では0.7割減となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが2.1割減となり、全体でも2.6割減となった。冷カレイ類は3.3割減、冷エビ類は1.9割減、冷カニ類は1.6割減となった。冷ギンダラは3.6割増、冷サンマは2割増、冷サバは5.5割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、メバチが2.8割高で、全体で1.3割高となった。冷サケ・マス類は、シロサケが1.3割高となり、全体で0.7割高となった。冷イカ類は、スルメ(国内)が4.3割安となり、全体で1.8割安となった。冷タイ類は1.1割安となり、ギンダラは3.1割安、サバは3割安、サンマは1.1割安となった。

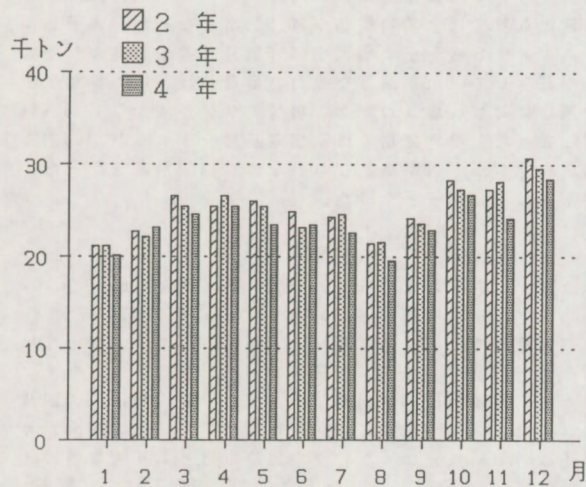
☆加工品類 取扱数量 24,103t(対前年比 85.7%)
平均価格 948円(" 25円高)

取扱数量では、焼物製品が1.2割増となった。塩蔵品は塩アキサケが4.3割減になるなど減少が目立ち、全体では3.1割減となった。煮干製品は、煮干イワシが減少して、全体では1.2割減となった。素干品は、干スルメ(国内)が4.6割増となったが、全体では1割減となった。平均価格では、塩蔵品は、品薄のイクラが3.9割高、塩アキサケが1.7割高となり、全体で2.1割高となった。煮干製品はシラス干が4.4割高となり、全体で2割高となった。素干品は、入荷増の干スルメ(国内)が2.2割安となり、全体では1.2割安となった。

12月

☆鮮魚類 取扱数量 18,256t(対前年比 101.3%)

図5-1 加工品取扱数量の動き



平均価格 1,227円(" 33円安)

取扱数量では、マグロ(国内)は4倍増となり、キワダ(国内)は4.8割増、メバチ(国内)は2.5割増となった。マタイ(養殖)は4.6割増、スルメイカは3.4割増、マイワシは1.4割増となった。キンメタイは3.2割減、サンマは1.7割減となった。平均価格では、入荷減のメジが2.3倍高、キンメタイは3.1割高となった。マグロ(国内)は3.7割安、キワダ(国内)は2.8割安、メバチ(国内)は1.5割安となった。スルメイカは3.2割安、マタイ(養殖)は1.7割安となった。

☆活魚類 取扱数量 1,360t(対前年比 98.4%)
平均価格 1,754円(" 126円安)

取扱数量では、活カンパチが2.3割増、活マタイが1.7割増となった。活ハマチは1.4割減、活スズキが0.9割減となった。平均価格では、活タコが2.9割高、活カンパチが1.5割高となった。活ヒラメ、活スズキがともに1.1割安、活マタイが2.2割安となった。

☆貝類 取扱数量 6,318t(対前年比 101.0%)
平均価格 1,133円(" 31円高)

アカ貝、アオヤギなどが減少したが、ムキカキ、ムキホタテなどが増加し、全体ではほぼ前年並となった。

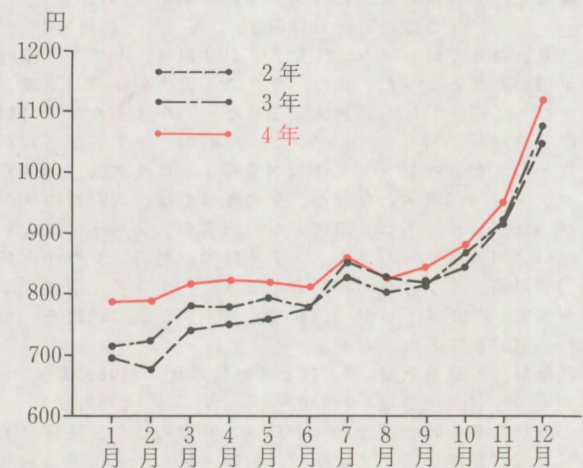
☆冷凍魚類 取扱数量 22,629t(対前年比 90.3%)
平均価格 1,266円(" 56円高)

取扱数量では、冷マグロ類は、キワダが4.8割増となったが、メバチが1.2割減で、全体では0.8割減となった。冷イカ類は、ムキイカが6割増となったが、スルメ(国内)が1.2割減、輸入スルメも大幅に減少し、全体では0.6割減となった。冷サケ・マス類は、ベニサケが半減し、全体でも2.6割減となった。アカエビが3.1割増、ギンダラが1.7割増となり、サバは6割減、ニシンは1.3割減となった。平均価格では、冷マグロ類は、メバチが1.8割高で、全体で1.1割高となった。冷イカ類は、モンゴウが1.4割高となるも、スルメ(国内)が4.1割安、ムキイカも2.8割安で、全体では0.9割安となった。冷サケ・マス類は、シロサケが3.7割高となったが、ベニサケの入荷が減少したので、全体では0.4割安となった。ギンダラは3.3割安、アカエビは1.7割安となった。

☆加工品類 取扱数量 28,391t(対前年比 96.0%)
平均価格 1,115円(" 38円高)

取扱数量では、素干品は、干スルメ(国内)が6割増となり、全体で1.2割増となった。切身加工品は2.7割増、

図5-2 加工品平均価格の動き



焼物製品は1.2割増となった。煮干製品は、煮干イワシが3割減で、全体では1.6割減となった。塩蔵品は、イクラが3.1割減、塩アキサケが3割減で、全体では1.1割減となった。平均価格では、塩蔵品は、イクラが4.7割高など、年末を控えて入荷が少ないため全般に高めで、全体では1割高となった。煮干製品は、シラス干が5.5割高で、全体で2.4割高となった。切身加工品は1.7割高となった。

2. 主要品目の取扱高

(1) マグロ類

4年の生鮮マグロ類の入荷量は、マグロ（輸入）は0.4割減、キワダ（輸入）は2.6割減、前年豊漁のメジは元に戻って2.8割減となったが、キワダ（国内）が4.2割増となったのはじめ、マグロ（国内）は2.7割増、メバチ（輸入）は2.7割増、メバチ（国内）は0.7割増となった。全体では0.4割増となった。平均価格では、メジが161円高となったほかは、マグロ（輸入）が516円安となったのはじめ、メバチ（国内）は240円安、メバチ（輸入）は192円安、キワダ（国内）は173円安と全般に安くなり、全体では、46円安となった。

冷凍マグロ類の入荷量は、冷ホンマグロは、0.9割増となったが、冷キワダが3.4割減、冷メバチも0.6割減となり、全体では0.7割減となった。平均価格では、冷キワダが144円高、冷メバチが128円高、冷ホンマグロも115円高となり、全体では127円高となった。

(2) マアジ

前年は減少したが4年の入荷は順調で、2割増となった。平均価格は564円で、74円安となった。

(3) サバ

生鮮品は、前年に続き入荷は減少し、0.3割減となった。平均価格は、593円で5円安となった。冷サバは2.8割減少し、平均価格も41円安となった。

(4) イワシ

入荷は、ほぼ前年並となった。平均価格は261円で、9円安となった。

(5) カツオ

カツオは、5～8月の入荷が減少し、0.9割減となった。平均価格は740円で、128円安となった。

(6) サンマ

好漁が続く、入荷は年間では1割増となったが、10月以降は減少傾向となっている。平均価格は322円で、30円安となった。

(7) スルメイカ

生鮮物の出回りは、年間を通じて前年を大きく上回り、5.3割増となった。平均価格は414円で、143円安となった。冷凍物は、生鮮物に押され、特に輸入物が減少したこともあって、全体では1.1割減となった。平均価格は、NZ物が激減して337円高、SA物も68円高となったが、国内物が85円安となり、全体では、23円安となった。

(8) 養殖ハマチ

前年からの減少傾向が止まらず、入荷も0.5割減となった。平均価格は975円で、53円高となった。

(9) サケ・マス類

生鮮サケ・マス類は、シロサケが1.9割減となったが、ギンサケが2.3割増、輸入物が2.8割増と増加し、全体では0.4割増となった。平均価格では、シロサケが119円高、ギンサケが116円高となったのに対し、マスが177円安、輸入物が114円安となり、全体では、88円安となった。

冷凍サケ・マス類は、冷ギンサケが2.3割増、冷シロサケが1.1割増に対し、冷ベニサケは2.2割減となり、全体では0.6割減となった。平均価格では、冷ベニサケが181

円高、冷ギンサケが45円高となり、全体では、84円高となった。

(10) 魚卵

イクラは、不景気で高級品が苦戦する中、入荷1.7割減と品薄になり、1,784円高となった。スジコは1.3割減で、385円高、スケコも0.8割減で、267円高となった。

(11) エビ類

生鮮エビ類は、イセエビ（国内）が0.4割増となったものの、クルマエビ（輸入）が2.5割減、クルマエビ（国内）が1割減、イセエビ（輸入）も1割減、マキエビが1.2割減になるなど減少が目立ち、全体でも1.1割減となった。平均価格では、イセエビ（国内）が938円安、イセエビ（輸入）が143円安のほかは、クルマエビ（国内）が780円高、マキエビが649円高、クルマエビ（輸入）が303円高となり、全体では220円高となった。

冷凍エビ類は、冷アカエビが2.2割増、オーストラリア物が4.8割増、インドネシア物は1.5割増となったが、タイ物が3割減、フィリピン物が2.7割減、台湾物が2.4割減と減少して、全体では0.5割減となった。平均価格では、入荷増のオーストラリア物が181円安、フィリピン物は入荷減にもかかわらず179円安となり、全体では、75円安となった。

(12) 加工品類

干スルメは、国内物は4.7割増で195円安となったが、輸入物は激減した。カマボコは1.4割減となり、平均価格は、94円高となった。開干アジは0.5割減となり、20円安となった。塩アキサケは1.9割減で126円高となった。加工品全体では入荷は0.5割減少し、平均価格は33円高となった。

3. 市場別取扱高

(1) 築地市場

総取扱高は、704,169tで前年比97%と減少(21,009t減)し、総取扱金額は、707,680百万円で前年比97%と減少(22,081百万円減)した。類別に見ると、鮮魚類の取扱数量は、163,355t(7,521t増)で前年比105%となり、取扱金額は、176,355百万円(520百万円増)でほぼ前年並となった。活魚類の取扱数量は、12,097t(348t増)で前年比103%となり、取扱金額は、23,255百万円(903百万円減)で前年比96%となった。冷凍魚類の取扱数量は、215,698t(14,743t減)で前年比94%となり、取扱金額は、235,045百万円(14,540百万円減)で前年比94%となった。加工品類の取扱数量は、250,594t(13,989t減)で前年比95%となり、取扱金額は、212,423百万円(3,809百万円減)で前年比98%となった。貝類の取扱数量は、52,228t(282t増)で前年比101%となり、取扱金額は、53,017百万円(2,750百万円減)で前年比95%となった。淡水魚類の取扱数量は、3,836t(139t減)で前年比97%となり、取扱金額は、4,751百万円(418百万円減)で前年比92%となった。海藻類の取扱数量は、6,361t(289t減)で前年比96%となり、取扱金額は、2,833百万円(83百万円減)で前年比97%となった。

(2) 足立市場

総取扱高は、66,051tで前年比99%とわずかに減少(782t減)したが、総取扱金額は、61,467百万円で前年比103%と増加(1,518百万円増)した。類別に見ると、鮮魚類の取扱数量は、16,531t(1,423t増)で前年比109%となり、取扱金額は、13,498百万円(759百万円増)で前年比106%となった。活魚類の取扱数量は、848t(56t増)

で前年比107%となり、取扱金額は、1,194百万円（109百万円増）で前年比110%となった。冷凍魚類の取扱数量は17,570t（1,651t減）で前年比91%となり、取扱金額は17,218百万円（231百万円増）で前年比101%となった。加工品類の取扱数量は、24,295t（748t減）で前年比97%となり、取扱金額は、23,845百万円（410百万円増）で前年比102%となった。貝類の取扱数量は、5,707t（125t増）で前年比102%となり、取扱金額は、4,876百万円で前年並となった。淡水魚類の取扱数量は、369t（19t減）で前年比95%となり、取扱金額は、463百万円（16百万円減）で前年比97%となった。海藻類の取扱数量は、732t（32t増）で前年比105%となり、取扱金額は、374百万円（25百万円増）で前年比107%となった。

(3) 大田市場

総取扱高は、37,701tで前年比93%と減少（2,820t減）し、総取扱金額は、35,815百万円で前年比98%と減少（725百万円減）した。類別に見ると、鮮魚類の取扱数量は、12,279t（1,805t増）で前年比117%となり、取扱金額は10,355百万円（1,443百万円増）で前年比116%となった。活魚類の取扱数量は、465t（106t増）で前年比130%となり、取扱金額は、900百万円（91百万円増）で前年比111%となった。冷凍魚類の取扱数量は、12,999t（5,603t減）で前年比70%となり、取扱金額は、12,355百万円（3,672百万円減）で前年比77%にとどまった。加工品類の取扱数量は、9,351t（512t増）で前年比106%となり、取扱金額は、9,709百万円（1,049百万円増）で前年比112%となった。貝類の取扱数量は、1,972t（220t増）で前年比113%となり、取扱金額は、2,005百万円（251百万円増）で前年比114%となった。淡水魚類の取扱数量は、222t（50t増）で前年比129%となり、取扱金額は、312百万円（75百万円増）で前年比132%となった。海藻類の取扱数量は、412t（90t増）で前年比128%となり、取扱金額は、179百万円（38百万円増）で前年比127%となった。

4. 卸売業者別取扱高

(1) 築地市場

① 大都魚類(株)

総取扱数量は、143,141tで前年比104%と増加し、総取扱金額は、143,737百万円で前年比102%と増加した。類別には、数量で冷凍魚は、7%増加（4,013t増）、鮮魚は、6%増加（1,965t増）、貝類は、4%増加（486t増）となった。加工品は、4%減少（1,437t減）となった。金額では、冷凍魚は、6%増加（3,148百万円増）、加工品は4%増加（1,075百万円増）となった。鮮魚は、ほぼ前年並となり、活魚は8%減少（550百万円減）となった。

② 中央魚類(株)

総取扱数量は、143,374tで前年比95%と減少し、総取扱金額は、165,215百万円で前年比95%と減少したが、昨年に続き取扱数量・金額ともにトップとなった。類別には数量で鮮魚は、5%増加（1,720t増）、活魚は、4%増加（122t増）、貝類は、ほぼ前年並となった。冷凍魚は、12%減少（7,602t減）し、加工品も、8%減少（2,532t減）となった。金額では、冷凍魚が、10%減少（7,587百万円減）となったほか、活魚は、3%減少（193百万円減）、加工品は、2%減少（545百万円減）、鮮魚も減少（277百万円減）となった。

③ 東都水産(株)

総取扱数量は、142,393tで前年比95%と減少し、総取扱金額は、155,767百万円で前年比96%と減少した。類別

には、数量で鮮魚が3%増加（1,151t増）したが、冷凍魚は、10%減少（6,109t減）、加工品は7%減少（2,671t減）、淡水魚は、12%減少（71t減）となった。金額では、鮮魚が、ほぼ前年並（141百万円増）となったほかは、冷凍魚は、8%減少（5,449百万円減）、貝類は、9%減少（867百万円減）、活魚も6%減少（238百万円減）した。

④ 築地魚市場(株)

総取扱数量は、132,860tで前年比98%とやや減少し、総取扱金額は、124,161百万円で前年比96%と減少した。類別には、数量で活魚が、9%増加（305t増）、鮮魚は、5%増加（1,560t増）となったが、冷凍魚は、13%減少（4,624t減）となり、淡水魚も10%減少（111t減）となった。金額では、鮮魚が2%増加（534百万円増）したが、冷凍魚は、10%減少（4,192百万円減）、加工品は、3%減少（1,162百万円減）し、貝類は、5%減少（480百万円減）となった。

⑤ 第一水産(株)

総取扱数量は、58,671tで前年比97%と減少し、総取扱金額は、58,623百万円で前年比96%と減少した。類別には、数量で鮮魚が、7%増加（1,124t増）、淡水魚は、32%増加（192t増）したが、加工品は、9%減少（1,781t減）となり、貝類は、7%減少（676t減）、海藻類は、26%の減少（154t減）となった。金額では、鮮魚は、前年並となったが、加工品は、6%減少（1,015百万円減）、貝類は、7%減少（809百万円減）、冷凍魚は、3%減少（458百万円減）となった。

⑥ 丸千代田水産(株)

総取扱数量は、67,794tで前年比94%と減少し、総取扱金額は、45,447百万円で前年比97%と減少した。加工品の取扱としては、数量・金額ともに昨年に続きトップとなった。類別には、数量で加工品が、7%減少（4,683t減）したが、海藻類は、7%増加（90t増）となった。金額では、加工品は、3%減少（1,527百万円減）となり、海藻類も3%減少（16百万円減）となった。

⑦ 総合食品(株)

総取扱数量は、15,935tで前年比96%と減少し、総取扱金額は、14,731百万円で前年比97%と減少した。類別には、数量で加工品は、4%減少（748t減）したが、海藻類は、13%増加（5t増）となった。金額では、加工品は、3%減少（468百万円減）に対し、海藻類は、34%増加（12百万円増）となった。

(2) 足立市場

① 東京北魚(株)

総取扱数量は、24,299tで前年比96%と減少し、総取扱金額は、21,670百万円で前年比98%とやや減少した。類別には、数量で鮮魚は、6%増加（297t増）、活魚は、27%増加（75t増）となったが、冷凍魚は、16%減少（1,037t減）し、加工品も、3%減少（381t減）となった。金額では、鮮魚は、3%増加（115百万円増）、活魚は、24%増加（81百万円増）し、加工品は、ほぼ前年並となった。冷凍魚は、9%減少（516百万円減）し、貝類も9%減少（165百万円減）となった。

② 大都魚類(株)千住支社

総取扱数量は、22,224tで前年比99%とわずかに減少し、総取扱金額は、21,219百万円で前年比107%と増加した。類別には、数量で鮮魚は、16%増加（773t増）し、冷凍魚は、12%減少（826t減）、加工品は3%減少（235t減）となった。金額では、冷凍魚は、12%増加（722百万円増）したほか、鮮魚は、7%増加（303百万円増）、加工品は、5%増加（390百万円増）、貝類も6%増加（99百万円増）

となった。

③ 中央魚類(株)千住支社

総取扱数量は、19,527tで前年比102%と増加し、総取扱金額は、18,578百万円で前年比102%と増加した。類別には、数量で鮮魚は、6%増加(353t増)、冷凍魚は、4%増加(212t増)、活魚も4%増加となったが、加工品は3%減少(132t減)となった。金額では、加工品は、やや減少(84百万円減)したが、鮮魚は、7%増加(342百万円増)、貝類は、4%増加(67百万円増)、冷凍魚類は、やや増加(26百万円増)となった。

(3) 大田市場

① 東京大田魚市場(株)

総取扱数量は、19,961tで前年比104%と増加し、総取扱金額は、19,701百万円で前年比107%と増加した。類別には、数量で鮮魚は、15%増加(932t増)、加工品は、6%増加(312t増)したが、冷凍魚は、7%減少(439t減)となった。金額では、鮮魚は、15%増加(812百万円増)、加工品は、13%増加(660百万円増)し、冷凍魚は5%減少(320百万円減)となった。

② (株)大田合水

総取扱数量は、17,739tで前年比83%と減少し、総取扱金額は、16,114百万円で前年比89%と減少した。類別には、数量で鮮魚は、21%増加(873t増)、活魚は、39%増加(101t増)、加工品は、6%増加(199t増)となったが、冷凍魚は、41%減少(5,164t減)と大きく落ち込んだ。金額では、鮮魚は、19%増加(630百万円増)、貝類は、26%増加(204百万円増)、加工品は、11%増加(388百万円増)となったのに対し、冷凍魚だけが34%減少(3,352百万円減)となり、冷凍魚不振の影響が大きかった。

(4) 買付比率

全体の買付比率は、数量では、49.2%と前年を0.9%下回り、金額では、49.1%と前年を0.8%下回った。市場別に見ると、築地市場の買付比率は、数量では、48.8%と前年を0.5%下回り、金額では、47.8%と前年を0.7%下回った。足立市場の買付比率は、数量では、45.7%と、前年を1.7%下回り、金額では、54.2%と前年を0.6%下回った。大田市場の買付比率は、数量では、62.5%と前年を6.5%下回り、金額では、65.0%と前年を5.4%下回った。卸売業者別に見ると、大都魚類は、数量では、49.2%と前年を1.7%上回り、金額では、46.2%と前年を1.1%上回った。中央魚類は、数量では、49.7%と前年を0.9%下回り、金額では、47.9%と前年を1.5%下回った。東都水産は、数量では、50.8%と前年を1.5%下回り、金額では、50.1%と前年を1.5%下回った。築地魚市場は、数量では、35.5%と前年を0.9%下回り、金額では、35.5%と前年を1.0%下回った。第一水産は、数量では、38.0%と前年を0.9%上回り、金額では、41.3%と前年を0.9%下回った。丸千代田水産は、数量では、80.1%で前年とほぼ同じ、金額では、83.4%と前年を0.6%上回った。総合食品は、数量では、37.3%と前年を2.9%下回り、金額では、57.4%と前年を0.2%上回った。東京北魚は、数量では、43.3%と前年を1.3%下回り、金額では、56.7%と前年を0.3%下回った。大都魚類千住支社は、数量では、44.6%と前年を1.0%下回り、金額では、53.9%と前年を2.0%上回った。中央魚類千住支社は、数量では、50.0%と前年を3.3%下回り、金額では、51.8%と前年を3.6%下回った。東京大田魚市場は、数量では、61.7%と前年を2.5%下回り、金額では、66.8%と前年を1.1%下回った。大田合水は、

数量では、63.4%と前年を9.8%下回り、金額では、62.8%と前年を8.1%下回った。

5. 出荷地別取扱高

(1) 総取扱高

都道府県別の取扱高数量のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位千葉・4位宮城・5位北海道・6位青森・7位愛知・8位三重・9位神奈川・10位福島と昨年の6位と7位が入り代わった。取扱高金額のベスト10は、1位東京・2位静岡・3位北海道・4位千葉・5位宮城・6位神奈川・7位大阪・8位愛知・9位三重・10位青森となった。

(2) 鮮魚取扱高

前年に続き東京が1位となったが、2位以降は変動が大きく、2位千葉・3位宮城・4位北海道・5位青森・6位静岡・7位長崎・8位鹿児島・9位三重・10位福岡となった。

(3) 冷凍取扱高

東京が前年に続き1位となった。2位静岡・3位青森・4位宮城・5位神奈川・6位大阪・7位千葉・8位北海道・9位福岡・10位長崎となり、変動が大きかった。

(4) 加工品取扱高

これも、東京が前年に続き第1位となった。2位千葉・3位静岡・4位宮城・5位北海道・6位愛知・7位福島・8位三重・9位茨城・10位兵庫となり、3～7位に変動が見られた。

表 1 年次別取扱高

(単位: トン・千円・%)

	4 年	3 年	2 年	元 年	6 3 年	6 2 年	6 1 年
総数量 前年比	807,920 97.0	832,532 98.3	847,319 97.7	867,538 98.4	882,040 99.1	889,831 102.9	865,060 101.5
総金額 前年比	804,962,014 97.4	826,250,552 97.9	843,694,370 103.7	813,943,824 102.8	791,664,123 102.2	774,701,487 105.1	737,241,220 100.2

表 2 - 1 年次別魚種別取扱数量

(単位: トン・%)

年次 魚種	4 年		3 年		2 年		元 年		6 3 年		前 年 比					4 年 60年
	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	数量	構成比	4年	3年	2年	元年	6 3 年	
総数量	807,920	100.0	832,532	100.0	847,319	100.0	867,538	100.0	882,040	100.0	97.0	98.3	97.7	98.4	99.1	95
鮮魚類	192,165	23.8	181,416	21.8	173,388	20.5	176,894	20.4	185,477	21.0	105.9	104.6	98.0	95.4	101.8	-
活魚類	13,411	1.7	12,900	1.5	12,582	1.5	12,036	1.4	-	-	104.0	102.5	104.5	-	-	-
貝類	59,906	7.4	59,280	7.1	61,195	7.2	62,588	7.2	67,117	7.6	101.1	96.9	97.8	93.3	99.4	89
冷凍魚類	246,266	30.5	268,264	32.2	285,557	33.7	292,752	33.7	305,479	34.6	91.8	93.9	97.5	95.8	95.7	85
鯨類	-	-	-	-	-	-	-	-	334	0.0	-	-	-	-	37.8	-
淡水魚類	4,427	0.5	4,535	0.5	4,242	0.5	4,362	0.5	4,505	0.5	97.6	106.9	97.2	96.8	95.0	88
海藻類	7,505	0.9	7,672	0.9	7,779	0.9	7,221	0.8	7,758	0.9	97.8	98.6	107.7	93.1	109.7	105
加工品	284,240	35.2	298,465	35.9	302,575	35.7	311,685	35.9	311,370	35.3	95.2	98.6	97.1	100.1	101.0	94

表 2 - 2 年次別魚種別取扱金額

(単位: 百万円・%)

年次 魚種	4 年		3 年		2 年		元 年		6 3 年		前 年 比					4 年 60年
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	4年	3年	2年	元年	6 3 年	
総金額	804,962	100.0	826,251	100.0	843,694	100.0	813,944	100.0	791,664	100.0	97.4	97.9	103.7	102.8	102.2	109
鮮魚類	200,208	24.9	197,486	23.9	192,274	22.8	182,021	22.4	188,661	23.8	101.4	102.7	105.6	96.5	104.6	-
活魚類	25,348	3.1	26,053	3.2	26,635	3.2	24,421	3.0	-	-	97.3	97.8	109.1	-	-	-
貝類	59,899	7.4	62,397	7.6	62,731	7.4	59,326	7.3	54,657	6.9	96.0	99.5	105.7	108.5	102.3	127
冷凍魚類	264,618	32.9	282,598	34.2	306,173	36.3	293,484	36.1	297,004	37.5	93.6	92.3	104.3	98.8	101.9	94
鯨類	-	-	-	-	-	-	-	-	928	0.1	-	-	-	-	46.6	-
淡水魚類	5,526	0.7	5,885	0.7	5,587	0.7	5,751	0.7	5,451	0.7	93.9	105.3	97.1	105.5	87.9	83
海藻類	3,386	0.4	3,405	0.4	3,144	0.4	2,815	0.3	2,792	0.4	99.4	108.3	111.7	100.8	111.1	129
加工品	245,977	30.6	248,427	30.1	247,150	29.3	246,126	30.2	242,171	30.6	99.0	100.5	100.4	101.6	101.4	108

表 2 - 3 年次別魚種別平均価格

(単位: キロ当たり円・%)

年次 魚種	4 年		3 年		2 年		元 年		6 3 年		対 6 0 年 指 数				
	価 格	前年比	価 格	前年比	価 格	前年比	価 格	前年比	価 格	前年比	4年	3年	2年	元年	6 3 年
総数量	996	100.4	992	99.6	996	106.2	938	104.5	898	103.1	115	115	115	109	104
鮮魚類	1,042	95.7	1,089	98.2	1,109	107.8	1,029	101.2	1,017	102.7	-	-	-	-	109
活魚類	1,890	93.6	2,020	95.4	2,117	104.3	2,029	-	-	-	-	-	-	-	-
貝類	1,000	95.0	1,053	102.7	1,025	108.1	948	116.5	814	102.9	144	151	147	136	117
冷凍魚類	1,075	102.1	1,053	98.2	1,072	106.9	1,003	103.2	972	106.5	110	108	110	103	100
鯨類	-	-	-	-	-	-	-	-	2,776	123.1	-	-	-	-	202
淡水魚類	1,248	96.2	1,297	98.5	1,317	99.9	1,318	108.9	1,210	92.5	95	99	100	100	92
海藻類	451	101.6	444	109.9	404	103.6	390	108.3	360	101.4	123	121	110	106	98
加工品	865	104.0	832	101.8	817	103.4	790	101.5	778	100.4	115	110	108	105	103

注: 平成元年から活魚類を大分類とし、鯨類は削除、生鯨は鮮魚類へ、冷凍鯨は冷凍魚類へ区分した。

表 3 - 1 市場別・年次別取扱数量

(単位; トン・円)

市場	年次 区分	4 年		3 年		2 年		元 年		6 3 年	
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
総数	数量 前年比	807,920 97.0	100.0	832,532 98.3	100.0	847,319 97.7	100.0	867,538 98.4	100.0	882,040 99.1	100.0
築地	数量 前年比	704,169 97.1	87.2	725,178 97.0	87.1	747,355 95.6	88.2	781,739 97.2	90.1	804,095 98.7	91.2
足立	数量 前年比	66,051 98.8	8.2	66,833 100.5	8.0	66,508 92.3	7.8	72,052 103.3	8.3	69,740 103.8	7.9
大田	数量 前年比	37,701 93.0	4.7	40,521 121.1	4.9	33,456 243.4	3.9	13,748 167.6	1.6	8,205 107.1	0.9

表 3 - 2 市場別・年次別取扱金額

(単位; 百万円・%)

市場	年次 区分	4 年		3 年		2 年		元 年		6 3 年	
			構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
総数	金額 前年比	804,962 97.4	100.0	826,251 97.9	100.0	843,694 103.7	100.0	813,944 102.8	100.0	791,664 102.2	100.0
築地	金額 前年比	707,680 97.0	87.9	729,761 96.7	88.3	755,004 101.7	89.5	742,239 101.9	91.2	728,171 101.9	92.0
足立	金額 前年比	61,467 102.5	7.6	59,949 103.5	7.3	57,927 99.9	6.9	58,006 104.2	7.1	55,685 105.2	7.0
大田	金額 前年比	35,815 98.0	4.4	36,540 118.8	4.4	30,763 224.6	3.6	13,699 175.4	1.7	7,808 107.8	1.0